「食と農」の博物館 展示案内

No.33

東京農業大学「食と農」の博物館
〒158-0098 東京都世田谷区上用賀2-4-28
TEL.03-5477-4033 FAX.03-3439-6528

開館時間 午前10時～午後5時（4月～11月）
休 館 日 午前10時～午後4時30分（12月～3月）
月曜日（月曜が祝日の場合は火曜）・毎月最終火曜日
大学が定めた日（臨時休業がありますのでご注意ください）

展示期間
2008.11.20～2009.3.22

レムール
マダガスカルの不思議なサルたち

日本で初めて繁殖したコクレルシファカの親子（1971）（撮影:柳楽天児）

はじめに

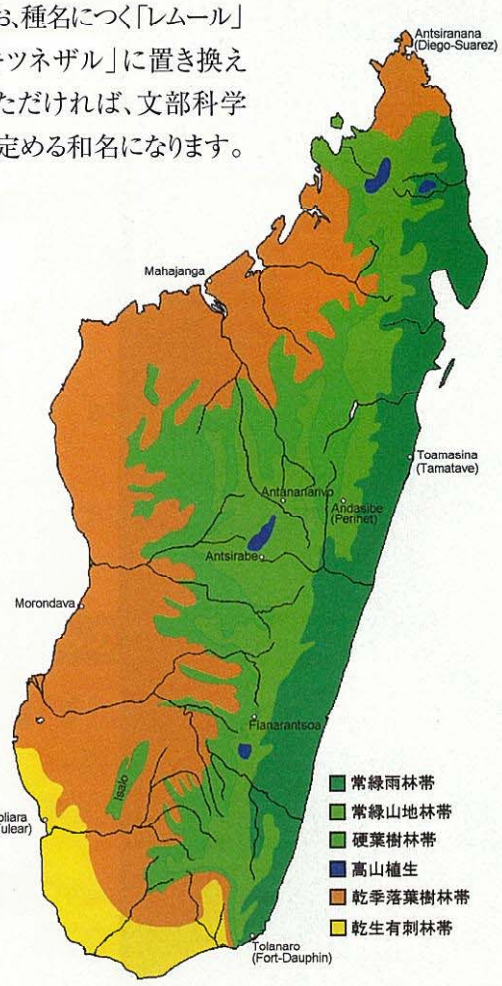
アフリカ大陸の東のインド洋上に浮かぶマダガスカル島は、他の大陸のサルとは全く違う「不思議なサルたち」が住む島としてよく知られています。

このサルたちは、原始的な特徴をもつ原猿類と総称される仲間です。原猿類はアジアとアフリカにも生息していますが、マダガスカルではそれらの地域とくらべものにならないほど多種多様に分化しています。このたびの企画展示は、マダガスカルに住む原猿類、「レムール」にスポットを当て、その不思議に迫ります。

このサルたちは一般に「キツネザル」として知られていますが、ここでは財団法人進化生物学研究所の創始者、近藤典生先生の提唱を取り入れ「レムール」の名を使います。

近藤先生は、「キツネ」と「サル」の2つの動物名が重なり、種類によってはさらに頭に「ネズミ」や「イタチ」がつくことに強い違和感をもっておられました。そして、「ゴリラ」や「チンパンジー」や「オランウータン」は英名が、またレムールの中でも「アイアイ」や「シファカ」や「インドリ」は現地語に由来する名前がそのまま和名に用いられているのだから、世界に広く通じる「レムール」の名を使うべきだと提唱されたのです。

なお、種名につく「レムール」を「キツネザル」に置き換えていただければ、文部科学省の定める和名になります。



マダガスカルの環境

マダガスカルの人と自然

マダガスカルは総面積59万4180km^2、日本の1.6倍の面積をもつ世界で4番目に大きな島で、日本から南西に約100万kmの位置にあります。

そこに住む人々は、1500年前にアジアとアフリカから渡来した人々を先祖とし、現在の人口は約1800万人です。

島の東海岸寄りを南北に背骨のように走る山脈が高原地帯をなし、その東側はインド洋から吹く湿った風のため雨がよく降り、降雨林が発達しています。山脈の西側は季節風による雨季と乾季がある比較的乾燥した地帯、雨がきわめて少ない南部乾燥地には独特な乾生林が広がっています。

アフリカから渡ってきたレムールたちの祖先は、このようないろいろな環境に適応しながら放散していったと考えられています。

レムールとは?

レムールは、サル目・原猿亜目・キツネザル下目・キツネザル上科に分類されています。キツネザル上科はさらにコビトキツネザル科、キツネザル科、イタチキツネザル科、インドリ科、アイアイ科の5科に分類され、その中に15属90種の現存種が記録されています。ところがレムールの仲間で意外に知られていないのが、絶滅した大型レムールの仲間で、分類が確定していないの

インドリ

で研究者によって意見は異なりますが、17種が記録されています。

絶滅したレムールたち

絶滅した17種のレムールたちは、すべて現存の最大種インドリ（体重10kg）より大型で、最大の種はゴリラに匹敵する200kg、小さい種でも20kgの体重があったことが発掘された半化石から推定されています。残念ながらこれらの半化石はひじょうに少なく、もちろん現在まで日本には所蔵しているところがありませんでした。

今回、マダガスカル国立アンタナナリヴ大学、古生物・考古生物学教室のご好意により、巨大種のひとつメガラダピス（推定体重80kg）の頭骨のレプリカ作成のための型取りが許されました。

レプリカ作成は、絶滅した巨鳥エピオルニスと同時代に生きた動物の参考資料として「絶滅鳥エレファントバードの総合研究会議」の研究事業の一環として行われたものです。本展示にあたり、同研究会議のご厚意で本邦初公開が実現することになりました。同時展示の最大の現生霊長類ゴリラの頭骨と比較してご覧ください。

絶滅した巨大レムール『メガラダピス』の半化石
（アンタナナリヴ大学理学部所蔵）

レムールの飼育と研究

進化生物学研究所は1964年から1974年の間に4次にわたるマダガスカル動植物学術調査隊を編成し、その際にもたらされた多くの学術資料の中に生きたレムールも含まれていました。それをもとに維持されてきたのが現在の進化生物学研究所のレムールコレクションです。

これまでに飼育されたレムールたちには、

ワオレムール（*Lemur catta*）
チャイロレムール（*Eulemur fulvus*）
クロレムール（*Eulemur macaco*）
エリマキレムール（*Varecia variegate*）
コクレルシファカ（*Propithecus coquereli*）
ヴェローシファカ（*Propithecus verreauxi*）
マングースレムール（*Eulemur mangoz*）
イタチレムール（*Lepilemur mustelinus*）

などがあります。

進化生物学研究所で繁殖したワオレムールの双子

それらの飼育を通じて26～36年間にわたって累代繁殖された5種483頭の記録から、寿命、生涯産子数、一腹産子数などについて整理したデータは、長期にわたる地道な記録に基づく数少ない基礎的なデータとして、分子分類など新手法の研究が目覚ましい発展を見せる今日も貴重な研究業績になっています。

レムールのすべてが絶滅危惧種として国際的に保護され、本邦では霊長類の輸入が原則禁止となっている今日、現在飼育されている個体群を、遺伝的多様性を保ちながら維持してゆくことは今後の研究にとても重要なことです。

そこで、進化生物学研究所ではマイクロサテライトDNAをマーカーとして遺伝的調査を実施し、今後の繁殖計画に反映して行く研究に取り組んでいます。その他にも、骨学的研究、種別の行動比較などの基礎的な研究を実施しています。

クロレムールの親子

レムール　～マダガスカルの不思議なサルたち～

関連行事

■講演会（無料・参加自由　直接会場にお越し下さい）

①「レムール　～マダガスカルの不思議なサルたち」
講師　宗近　功氏（財団法人進化生物学研究所主任研究員）
2008年12月13日(土)　13：00～15：00

②「絶滅巨大レムールたち　～マダガスカルの化石生物」
講師　吉田　彰氏（財団法人進化生物学研究所主任研究員）
2009年1月10日(土)　13：00～15：00

③「絶滅巨大レムールの復元」
講師　酒井　道久氏（埼玉県立大学教授・彫刻家）
2009年2月14日(土)　13：00～15：00

■企画　財団法人進化生物学研究所

同時開催

■地球を庭にした「造園」の仕事と魅力
2008年11月20日（木）～2009年5月6日（水）
stageⅠ：都市の緑を活かし・つくる技術
11月20日（木）～1月25日（日）
stageⅡ：地球の魅力を引き出す技
1月27日（火）～3月15日（日）
stageⅢ：１本の緑・大きな緑を育てる技
3月17日（月）～5月6日（水）

これからの展示・催事

■「すんきの里　信州木曽の観光と物産展」
～東京農業大学と長野県木曽町との「連携協力に関する協定書」調印記念～
2008年11月21日（金）～11月30日（日）

■りんごをまるごと楽しむ！宮田正信先生のくだもの教室
2008年11月29日（土）　午後1時～3時

PRINTED WITH SOY INK　この印刷物は再生紙を使用しております。
2008.11.20.5000